
残り一時間

前歯

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
残り一時間

【Nコード】
N7541I

【作者名】
前歯

【あらすじ】
青年を縛る時という名の檻……彼が見るのは、地獄か、天国か……
…

(前書き)

文芸部の方で書いたものです。
もしよろしかったらお読みください。

僕は文芸部員。小説の締め切りまであと一時間。

なのにまだ作品は仕上がっていない。

作品の提出は強制ではないのだけれど、どうしても作品を出したかった僕は、ノートパソコンを開き、無我夢中で文字を打ち込み始めた。

ああ、これから入ってくる新入生の為に、少しお話しておこう。僕たち文芸部員にとって、締め切りは恐怖の対象だ。そして悪魔のような存在。越えるべき壁でもある。

その壁を越えるのは、すごく辛くて、苦しいことだ。だけどその壁を越えた時、僕はすごく幸せな気持ちになる。困難を乗り越えた先には、大きな光が待っている。僕はそう思っているんだ。他の文芸部員も、そんなことを思っているのかもしれない。

人は自分よりも大きな壁を、いくつもいくつも乗り越えて成長していく。だから僕にとって、締め切りを克服することは、自分が昨日まで、締め切り前までの自分よりも成長するってことだと思っているんだ。

だからどうしても、僕は締め切りに間に合わせたいんだ。

よし、頑張ろう。

白紙のページに僕はいろんな想いを綴る。

どうかこの文字達が、読んでくれるみんなの心に届きますように。そう願いを込めて、僕は一生懸命キーボードをたたいていく。

いつでもそうだ。僕らは文字の集まりに、メッセージを込めている。

そのメッセージは、一つじゃない。それを受け取る人によって、受け取り方は違うだろう。

それでも僕は書き続ける。もしかしたら僕の込めたメッセージが、誰かを幸せにできるかもしれない。勇気づけられるかもしれない。

そう想うと、手が止まらないんだ。

悪魔が囁く。

「あと四十分を切ったぞ」

五月蠅い、僕は諦めない。

「そんなギリギリで書いた作品が、本当にいい作品になると思っているのか？」

聞こえない。僕はただ自分の想いをみんなにぶつけるだけだ。

僕は必死で文字を打ち込んでいく。

指が痛くなってきた。

負けるか、僕は文芸部員だ！

一つ一つの文字が、僕に力をくれる。文字を打ち込む度、僕の感情のボルテージが上がっていく。

泣きそうだった。

間に合わないんじゃないか？

そんな疑問が頭をよぎる。

でも僕は諦めない。

最後まで、最後まであがいて、あがき続けて、挫けそうになりながらも頑張るから、意味があるんじゃないか。

「あと三十分だぞ」

悪魔がまたも僕に囁く。

あと三十分？ まだまだ僕には余力が残ってる。諦めてたまるもんか。

「あと二十分だ」

最後の瞬間まで、僕は書き続ける。いくぞ、まだまだ！

「頑張れ！」

いつの間にか他の文芸部員が僕を応援してくれていた。

「うん！」

僕はその声に応えるべく、更に書くスピードを上げていく。

「お前ならやれる！」

いつでもそうだ。挫けそうになった時、そこには仲間がいた。仲間のおかげで、僕は今ここにいる。
ここで、想いを紡ぎ続けている。

「あと五分」

悪魔はなおも僕に囁いてくる。
でも、今の僕に何を言っても無駄だ。
僕は力の限り書き続ける。

「あと四分」

まだだ、まだいける。
あと少し。

「三分」

僕なら大丈夫。ウルトラマンだって三分で怪獣を倒すじゃないか。
今の僕はウルトラマンだ！
何者も僕を止めることはできない。

「一分を切ったぞ」

最後の瞬間を迎えるその時まで、勝負の行方はわからない。
僕は前に進んでいく！

「三、二、一」

悪魔め、僕は屈しないぞ！
何故なら、何故なら僕は、
文芸部員だから！

「零」

悪魔がそう囁いたのと、僕が作品を書く手を止めたのは、ほぼ同

時だった。

「ぼ、僕は、僕は……」

眩きながら、僕はパソコンの前で頭を抱える。

「よく頑張ったな」

悪魔が嗤っていた。

「だが、ゲームオーバーだ」

「うわあああああああああつ！」

僕は悲鳴をあげる。

そう、僕は悪魔に敗北した。

最後の最後で、保存しないまま文書作成ソフトを終了してしまったのだ。

「計画性のなかった貴様が導いた結果だ……フフフフ、フハハハハハハッ！」

僕を嗤う悪魔の声が、部屋という狭い空間に響き渡る。

僕を励ます仲間の声が聞こえる。

だけど僕の耳はそれを受け付けない。そしてその場から動くことができなかった。

これを読んでいる君たち、どうか君たちは負けないで欲しい。

僕が勝てなかった悪魔を、倒してくれ。

僕の事は気にするな。

僕の屍を、越えていけ！

そう思った時、僕の身体は椅子から崩れ落ちた……。

これは、締め切り一時間前に白紙の状態から作品を書こうとした、とある文芸部員の記録である。

これを読んだ君たちは、これから何を感じただろうか？

今君たちが感じていることを忘れないで欲しい。

その気持ちは、これからの文芸活動への原動力となるかもしれないのだから。

これにて終幕

(後書き)

×切って、本当に恐ろしいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7541i/>

残り一時間

2011年1月20日01時19分発行